

## 「第14回もんじゅ安全性調査検討専門委員会」議事概要

### 1. 日時

平成15年2月3日(月)13時00～14時45分

### 2. 場所

福井原子力センター(敦賀市)

### 3. 出席者

(委員) 児島座長、若林委員、柴田委員、中込委員、堀池委員、榎田委員  
(福井県) 広部部長、増山理事、来馬課長、岩永主任、島田鑑査、山本技師、小西技師  
(敦賀市) 笹岡課長、加藤技師

### 4. 説明者

経済産業省 原子力安全・保安院 新型炉等規制課長 渡辺 格

### 5. 議題

- 1) 高速増殖原型炉もんじゅの行政訴訟について  
(経済産業省 原子力安全・保安院)
- 2) 報告書案の検討について
- 3) 今後の委員会の進め方について

### 6. 配布資料

- ・資料 No. 1-1 「県民意見」の概要と整理項目
- ・資料 No. 1-2 「県民意見」に対するこれまでの審議概要
- ・資料 No. 2 今後の委員会の進め方について
- ・資料 No. 3 高速増殖原型炉「もんじゅ」の行政訴訟の概要  
〔経済産業省 原子力安全・保安院〕

### その他(参考資料)

- ・高速増殖炉もんじゅに関する訴訟の判決について(判決骨子、判決要旨)  
〔名古屋高等裁判所金沢支部第1部〕
- ・第13回もんじゅ安全性調査検討専門委員会(議事概要案)

## 7. 議事概要

### < 開会挨拶（児嶋座長） >

- ・ 前は、1月10日に委員会を開催し、原子力安全委員会からは、平岡部会長、仲嶺審査指針課長と、原子力安全・保安院からは渡辺新型炉等規制課長に出席いただき、「高速増殖原型炉もんじゅのナトリウム漏えい対策工事等にかかる2次審査の結果」、「安全性総点検に対する国の確認状況」、「昨年4月に当委員会が取りまとめた中間取りまとめに対する回答」、この3項目について、詳細な説明をいただいた。
- ・ それらを踏まえ、前回、各委員から意見を伺い、「委員会として審議をまとめる段階にある」との意見で概ね一致し、今回から報告書（案）の検討を行いたいと考えていた。しかしながら、既に委員ご承知のとおり、名古屋高裁金沢支部において審理されてきた「もんじゅ」の原子炉設置許可処分に係る無効確認訴訟で、先週1月27日、「設置許可は無効」とする判決が出された。これに対し、1月31日、国側は上告した。
- ・ 本日は、これらの経緯について、原子力安全・保安院から説明を伺う予定をしており、原子力安全・保安院からは渡辺課長に出席いただいている。
- ・ 裁判は、司法の立場で行われるもので、この委員会がその判決自体に言及できるものではないと考えている。しかし、判決の中では、当委員会で審議してきた県民意見の技術的な課題についての判断が示されている。
- ・ そのような意味では、当委員会でのこれまでの審議とも密接にかかわってくる問題であると考えている。
- ・ 私としては、この判決の科学技術的な部分については、今後、十分に調査検討し、審議する必要があるのではないかと考えている。今回の判決に対する国の考えについてはお聞きするが、我々は独立した委員会として、技術的な点については改めて調査した上で、委員会としての判断を明らかにしていきたいと考えている。
- ・ したがって、本日は、各委員の考えもお聞きした上で、当委員会として、この判決について、今後どのように対応していくかについて決めていきたいと思う。

### （児嶋座長）

- ・ （事務局より配付資料確認後）議題1の「高速増殖原型炉もんじゅの行政訴訟」に関連して、まず、広部県民生活部長から県の考えをお伺いしたいと思う。

### （広部県民生活部長）

- ・ 先日的高速増殖原型炉もんじゅに係る行政訴訟の控訴審において、昭和58年の原子炉設置許可を無効とする判決が出されたことを重く受け止めている。
- ・ 昨年の東京電力の不正問題等により、原子力の安全規制に対する県民の不信感が高まっていた折、県民にさらに大きな動揺、不安を与えたことはまことに残念である。
- ・ 国は、今回上告したわけであるが、県としては、判決に対する国の対応も含め、

今後の推移を注意深く見守っていきたいと考えている。

- ・ 15 基の原子力発電所を抱える本県においては、これまで、安全性の確保、地域住民の理解と同意、地域の恒久的福祉の原子力三原則を基本として、県民の立場に立って慎重に原子力行政を進めてきたところである。
- ・ 県においては、「もんじゅ」全体の安全性を確認するため、国とは別に本委員会である「もんじゅ安全性調査検討専門委員会」を独自に設置して、委員の皆様に精力的に審議を進めてきていただいている。
- ・ 今後、「もんじゅ」の問題については、この専門委員会の結論、県議会での議論、さらに地元敦賀市の意見等を十分踏まえた上で、県民の立場に立って対応していく方針である。
- ・ 各委員の皆様におかれましては、今後も、この「もんじゅ」の問題について県民の立場で十分に審議、検討、審議していただくようよろしくお願い申し上げます。

## 1) 高速増殖原型炉もんじゅの行政訴訟について

(資料 No. 3 に基づき、渡辺課長より説明)

### (児嶋座長)

- ・ それでは、委員の方から、今回の判決や、委員会としての今後の進め方についてご意見をお伺いしたいと思う。

### (若林委員)

- ・ 委員会は、やはり技術的な問題を考慮に入れるべきで、判決うんぬんよりも、今回、国が上訴したということで、その理由の中で技術的な問題があれば、それをもう一度検討することが大事ではないかと考えている。

### (柴田委員)

- ・ これまで何回も会議を行い、安全性を重視する立場からいろいろと議論を重ねてきたが、その途中で、今のような話が出てきた。
- ・ 今、若林委員が言ったように、技術的な観点から広い意味での安全性を十分確認するというのが、この委員会の共通のスタンスであり、「もんじゅ」の行政訴訟については、今、国のほうからも説明があったが、そういうことを詳細に聞くことが重要である。それから、これまでの安全性に対する議論を深めていくことが必要だと考えている。

### (中込委員)

- ・ 私としては、この委員会は、やはり独自に技術的な面も含め、私自身もかねがね言っているが、人間の管理も含めて、もんじゅ全体の安全性を審議してきたと思っている。
- ・ 判決は、まだ確定したとは考えていないが、やはり、この委員会の役割というの

は、県民の方々にいかに説明をしていくかということが非常に重要であると考えている。したがって、我々が今までやってきた成果は、機会をみてなるべく早い段階で報告書をまとめるという方向でやってほしいと考えている。

- ・ 議論することは、必要であると考えており、これから裁判に向けての動きもあると思うが、国の方も真摯な対応をしていただきたいと考えている。

#### （堀池委員）

- ・ 先ほど、渡辺課長のほうから話があったように、判決のポイントが4点ほどある。1点目の「無効確認について」とあるが、法律論が判決のポイントであって、技術的な部分に関しては重大かつ明白性は必要ではないという形で裁判では言及されているのではないかと思う。
- ・ そのあたりを、なるべく誤解のないように議論を進めていくことが重要であると考えている。ただ、床ライナにしても、SG（蒸気発生器）にしても、HCDA（炉心崩壊事故）についても、過去の委員会でも議論しており、そのあたりについても、どのような形で、もう一度議論するべきかということも含めて、誤解のないように議論を進めることが大事である。

#### （榎田委員）

- ・ 私も、他の委員の先生方と同意見である。この委員会では、県民意見をもとに、技術的な問題について項目を絞り審議を重ねてきた。
- ・ この委員会の設置の目的は、県民の方々に不安があってはならないということも1つあると考えており、各委員が発言されたように、今後、何らかの審議を重ねることが必要であると考えている。
- ・ 原子力安全・保安院より説明をいただいたが、高裁の判決については、委員会の中でも整理して、その中で、行政訴訟に関する部分ではない技術的なものについて、過去の我々の審議で尽きているのか、また、県民の方々に分かるような説明責任を果たすという観点からも、もう少し審議をしてはどうかと考えている。

#### （児島座長）

- ・ 私も、各委員の意見と同じである。委員会としては、判決のうち、科学技術的な問題について、裁判所がどのような観点から判断されたのかということを精査する必要があると思っている。その点について、異論はないか。（特になし）
- ・ 国の方から、今後、上告理由書を裁判所に提出するということだが、これらについても十分整理した上で精査する必要があると考えるがどうか。（特になし）
- ・ それらの精査をまず行った上で、委員会として、科学技術的な判断について独自に慎重に審議することが必要ではないかと考えている。それから、県民の方々の不安に対して分かりやすく説明することが必要ではないかという意見もあった。
- ・ そのような対応を行った上で、委員会としての結論を出す、そしてその結論が県民の方々に分かりやすい形であることが必要であると考えている。

## 2) 報告書案の検討について

### (児島座長)

- ・ 報告書案の検討については、前回の委員会では、「今後の報告書の取りまとめにあたり、委員の中から担当を選出する」という話をしたが、堀池委員、榎田委員にお願いした。
- ・ 今、議論したように、判決の内容を踏まえると、それに対する審議も必要であるという各委員の意見もあり、報告書案そのものの検討を行うには、まだ少し時間を要するのではないかと考えている。
- ・ 一方で、これまで、当委員会で審議した内容については、再整理し、確認していくことは、報告書を取りまとめるにあたって重要なことであるとも思う。
- ・ これまでの審議を再整理しながら審議を継続していくという方向で行いたいと思う。

### (事務局)

- ・ 前回の委員会(1月10日)以降、報告書案の取りまとめに入るということで、榎田委員、堀池委員をはじめ、各委員と、どういう方針でまとめていくかということについてを議論させていただいた。
- ・ 我々の委員会では、県民意見をベースにして、委員会として、例えばサイクル機構、国から技術的な内容について説明を受け、審議を重ねてきた。
- ・ 県民意見の中には、例えば項目の中で「もんじゅ事故」については、「事故後の連絡が遅れたのはなぜか」という事実関係についての意見もある。この委員会では、そういった1つ1つの意見に対して「良い、悪い」や「事実関係はこうである」ということまでは踏み込んでいない。
- ・ 事実関係等については、サイクル機構の資料なり見解なりで確認できる。委員会としては、どういう議論をしてきたかということについて、議事概要としてまとめており、まず、これまでの審議を再整理する必要があるということで資料を作成した。
- ・ その資料を踏まえて、例えば「もんじゅ事故」については、「こういう教訓を踏まえて、こういう改善等が必要ではないか。」「こういうことは確認した。」というように、項目ごとに各委員の意見も踏まえてまとめていくという方針がいいのではないかと委員の意見もいただいている。
- ・ 先ほども話があったが、今回の判決に関わる部分以外について、まず、事務局から資料構成等の説明をさせていただきたい。

(資料 No. 1 - 1、資料 No. 1 - 2 の資料構成、概要について紹介)

### (児島座長)

- ・ 資料 No. 1 - 1、資料 No. 1 - 2 の両方を見ながら審議を進めていきたい。例えば、資料 No. 1 - 2 の表紙にもあるが、「4 ナトリウム漏えい対策」については、今

回の判決の中でも指摘されている床ライナに関する内容が記載してある。

- ・また、「6 高速増殖炉の安全性」についても炉心崩壊事故に関する内容、「7 蒸気発生器の安全性」は、高温ラプチャの話に関連するため、これらについては、判決内容等の精査をしてからの審議とした方が適当ではないかと考えている。
- ・本日は、むしろ「3 もんじゅ事故」、「5 温度計の破損と交換」、「10 放射線管理」、「安全性総点検」など、判決内容とは直接関係のない事項について、報告書としてどうまとめていくかについて審議したい。

### **3 「もんじゅ」事故**

#### **(中込委員)**

- ・以前から主張しているが、広い意味でハード、いわゆる技術の面がある。その他にソフト面、これについてはヒューマンエラー等あるが、この面については、国では、大きな意味での品質管理ということで行われているかもしれないが、安全審査マターではなく、ソフト面についてはあまり（国も）言及されていなかったのではないかと考えている。
- ・ヒューマンエラーは、非常に重要な要素であり、「もんじゅ」の事故の場合、どちらかという、連絡が遅くなったとか、そういう面が強かったのではないかと考えている。このため、いろいろと批判があり、県民の方々も非常に不安になったのではないかと考えている。
- ・基本的には「人間は間違いを犯すものである」という前提が必要であると考えており、技術的にはいろいろできたとしても、完全にはカバーしきれない。そういういわば「技術の谷間」というようなところを埋めるというか、技術でカバーできない部分に対して、人間のコミュニケーションの取り方が非常に重要になってくる。
- ・これまでのサイクル機構からの回答では、そういうところ（通報連絡体制等）について、いろいろと改善されているということは聞いているので、是非、教育訓練も含めた通報連絡体制、コミュニケーションの事を報告書には入れるべきではないかと考えている。
- ・機器類など、ハード面だけで100点満点を取れるわけがないので、そこを補う人間のコミュニケーションの大切さを盛り込みたい。

#### **(児島座長)**

- ・ヒューマンエラーを確実に防ぐとか、コミュニケーションを確実にとっていくことが必要であるということを、報告書の中に盛り込むということでまとめていきたい。

#### **(柴田委員)**

- ・第2回委員会では、「もんじゅ」の施設を見せていただき、通報連絡体制について

もFAX等を用いてすぐに連絡できるようになっているという話もあったが、情報関連の進展は目覚ましいものがあり、インターネットを利用するということが、今や日常的になっている。

- ・ このあたりを踏まえたシステムの整備などを、是非、お願いしたいと考えている。

#### （児島座長）

- ・ 新しい情報伝達技術の採用で、よりの確に情報を伝えるという意見かと思う。

#### （若林委員）

- ・ 「もんじゅ」事故では1つの大きな問題点として、（現場からの）情報がどんどん変わってきたということがあり、住民の方々に非常に不安をいだかせた。事実を早く伝達しようとするとは必ず誤りがあるということを、サイクル機構にまず理解してもらったとともに、情報を受け取り手である県、住民の側も、その情報は、時間とともにどんどん訂正されていくということを理解することが大事であると考えている。
- ・ 情報の正確さと迅速さとは裏腹の問題だと考えている。

#### （児島座長）

- ・ 迅速さと正確さは必ずしも一致しないということを出すほうもはっきり言いながらやっていく必要があるということだと思う。
- ・ 教育訓練、通報連絡体制については、サイクル機構から説明を受けているが、委員会として、今のような各委員の意見を付け加えることで報告書を取りまとめていきたい。

## 5 温度計の破損と交換

#### （児島座長）

- ・ 「温度計の破損と交換」については、改良温度計に関する審議等があり、サイクル機構から説明を受けるとともに、国からも説明を受けた。

#### （若林委員）

- ・ 国やサイクル機構からの技術的な説明については、大体納得できたが、サイクル機構からの説明の中に、「配管外から（内部の温度を）計測する技術を開発したい」ということがあったが、この件については是非、研究開発を進めていただきたいということを要望したい。

#### （堀池委員）

- ・ 汎用部品である温度計が折れ、ナトリウムが漏れたということで、「設計・施工する上で何故そういう抜け落ちが生じたのか」という意見もあった。

- ・ 設計・施工上のシステムとしての抜け落ちがないようフォローアップすることが重要であり、このことについてはサイクル機構に対しても申し上げる必要がある。

（児嶋座長）

- ・ 改良型温度計に対する意見はどうか。

（堀池委員）

- ・ 改良型温度計については流力振動に関する計算が行われ評価もされていることから、十分安全なものとしてできているはずであると考え。ナトリウムのバウンダリのところで見落としがあったということに対しては、そういうシステムについて見直していく必要があると考えている。

（中込委員）

- ・ 温度計に関する申請書に出ているものだけという考えではなく、他の機器類に対する安全性についても、リスク管理も含めて、サイクル機構として努力していく必要があると考える。この点も盛り込んでいただきたい。

（榎田委員）

- ・ 改良型温度計については、詳細な説明を受け、問題ないものと思う。若林委員の方からも超音波温度計に関する意見があり、私も、開発は進めていただきたいと考えているが、それだけではなく、例えば委員会の審議では新型制御棒の話などがあったと思うが、より安全性が高まるものについては、それを使用することで安全性が向上することを確認しつつ、採用していくことが非常に重要である。
- ・ 開発期間というか、そういうものをある程度明示して、いつ頃、採用されるのかということを県民の方々に説明していくことが非常に大切だと考えている。
- ・ 先ほどの「もんじゅ事故」の方で意見を述べた方がよかったのかもしれないが、透明性をどう確保するかということが非常に重要であり、これまでの委員会の審議過程の中でも東電の不正問題が発覚し、それに対しても組織としての問題点などに関する議論をしている。
- ・ もんじゅ事故後、いろいろと改善されていることは、これまでの説明で分かるわけだが、開かれた組織という観点からも、さらに改善していく姿勢を示すことが必要である。

（児嶋座長）

- ・ 今の意見のように、透明性、情報公開を徹底していただくということで、報告書に盛り込んでいきたい。
- ・ 温度計そのものの改造については、妥当であるという判断をしたいと思う。また、超音波温度計の開発については、是非進めていただきたいと考えている。その内

容についても情報公開をしていただきたい。情報公開については、すべての項目に通じると思う。

（柴田委員）

- ・ これまでの委員会の審議の中でも、品質管理の重要性について強調されたが、最重視をしてやっていただきたいと考えている。
- ・ 改良型温度計については、非常に頑健なタイプになっていると思うが、品質管理を図ることで、さらに信頼性を確保していただきたい。

## **10 放射線管理**

（児嶋座長）

- ・ 「放射線管理」については、主としてナトリウムの純度管理、安全審査での被ばく評価について、審議概要を取りまとめている。

（若林委員）

- ・ 特に作業員の被ばく低減化について、人の管理も含めて改善できる点については、今後もさらに努めていくことが必要である。

（児嶋座長）

- ・ 1次系ナトリウムの純度管理についてはどうか。

（若林委員）

- ・ 純度管理については、コールドトラップにより行われているとの説明などがあり、その点については問題ないものとする。

（中込委員）

- ・ 先ほどから言われている情報公開の一環として、放射線のモニタが行われているが、「通常はこういう状態である」というものを常に公開するべきであるとする。
- ・ 異常なことが起こった場合に、「比較」というか「何が異常か」ということを判断する上でも、放射線モニタの情報や通常の保守管理に関する情報を公開する必要があるとする。

（榎田委員）

- ・ 審議の中で、放射性廃棄物についても議論したが、「もんじゅ」は現在運転停止の状態であるため、放射性廃棄物が定期的に発生し、それをドラム管などに入れ保管するという状態ではない。
- ・ 今後、放射性廃棄物が定常的に発生していくというような状況を考えた場合、その管理状態についても日頃から情報公開していくべきである。また、そういった

ことを日頃から説明していくということを考えていただきたい。どの位先の安全性を考えるべきか色々あるが、放射性廃棄物の量を含め情報を出していくことも報告書に入れるべきである。

## **安全性総点検**

### **(児嶋座長)**

- ・ 安全性総点検については、これまでの審議をまとめると主に、設備改善、安全性研究等の反映の2つになる。設備改善については、国、サイクル機構からの説明を受けている。

### **(若林委員)**

- ・ 安全性総点検について、いろいろと説明を受け、いい方向に向かっているということを確認した。
- ・ 私自身の個人的な要望になるかもしれないが、このような安全性総点検に類似した総点検を、今後とも継続していただきたいと思う。問題点を洗い出して、改善する方向に進めてほしい。
- ・ 改善の中には、ハードウェアだけでなく、ソフトウェアも絡んでくるということ認識して、新しい研究成果を取り入れながらやっていただきたい。これは、総論的な話になるかもしれない。

### **(児嶋座長)**

- ・ 安全性総点検の改善項目は、58件もの事項があった。そのうちの大部分について説明を受けた。
- ・ 委員会としては、安全性総点検については、今のような付帯意見も踏まえて、さらに安全性向上を図っていただきたいと考えている。

### **(中込委員)**

- ・ これは、最初の「教育訓練」に入るかもしれないが、今、若林委員が指摘されたように、安全性総点検の中でもソフト面が非常に重要ではないかと考えている。教育だけではなく、実際に体を動かすといったような訓練についても、新しいアイデアを取り入れるなど、総点検の一部として行っていただきたいと考えている。

### **(柴田委員)**

- ・ 今後とも総点検を行っていくべきという意見は、そのとおりと思う。私自身、民間の設備等をいろいろ見せていただく機会が多いが、点検し改善していくということについては、そこで終わるのではなく絶えず、継続していかなければならないということを感じている。
- ・ これまでの審議の中でも取り上げたが、「常陽」におけるナトリウム火災の議論を

した。ナトリウムの取り扱いというのは非常に重要なポイントであり、常陽での経験を踏まえ十分に技術伝承していただき、また、海外等での情報も取り入れた上で、最新のトレーニングを行い万全を期して欲しい。

**（児嶋座長）**

- ・ 今のような意見も取り入れ、この項目に関する報告書を作成していきたい。

**（事務局）**

- ・ 品質保証や品質管理体制などについては、今の審議の中でも「3 もんじゅ事故」や「安全性総点検」の両方で問題点としてでている。また、教育訓練などもそうであるが、資料では、そこまで見えてこない。
- ・ こういった品質管理や教育訓練をどこに盛り込むかは、また検討させていただきたいが、資料 No. 1 - 2 の「審議概要の整理」については、もう少し足りない部分も補いながら修正して、改訂版を作成していきたい。

### **3）今後の委員会の進め方について**

**（児嶋座長）**

- ・ 裁判に関連して、先ほど、原子力安全・保安院から説明があったが、（裁判所が上告受理申立書を受理し、その旨を国に通知された場合）国は50日以内に上告理由書を書面で提出することになるかと思う。
- ・ この上告理由書を入手し、内容を整理し、相違点を明らかにした上で、次回委員会を開催したいと思う。

**（事務局）**

- ・ 今日、配布させていただいたのは、判決骨子と要旨である。実際の判決文は約370頁前後あり、いわゆる法律論争的な部分と技術的な部分がある。
- ・ 先ほど、座長がまとめられたポイントから言うと、技術的なものだけでも、そこから分かりやすく整理しなければならないと考えている。
- ・ その取りまとめの時間と、国側が上告理由書を提出するとすると、50日ということで1ヶ月半程度であり、次回委員会に臨むとなると資料の作り方等を考慮しても2ヶ月程度かかるのではないかと考えている。

**（児嶋座長）**

- ・ 上告理由書の内容がこういったものになるのか、例えば、その中に技術的なことが含まれるのかといったことがまだ分からない。国の意見については、おそらく出てくるのではないかと思うが、上告理由書を見ないと、技術的な問題の対比が難しいということになる。
- ・ そういう場合には、国からの説明も必要ではないかと思う。いずれにしろ、次回

委員会開催については座長に一任いただきたい。

- ・ 本日の議題は終了したが、会場から何か意見があればお願いします。

#### （会場より発言１ 福井市：渡辺氏）

- ・ 今日、児嶋先生がまとめられた方向で、これからの審議が継続して行われるということは大変良いことだと思っている。是非私たち県民が納得できるような審議をお願いしたい。
- ・ 今度の裁判で色々大きな問題が提起された。例えば、原子力安全委員会がその責務を果たしていない。どういうことかと言えば、安全委員会が決めた規定の中には、事故が起こった時に安全装置の一つが故障するということを一番厳しい条件で考えなければならないということがあるが、規定を自分で作っておいて、守られていないたくさんの実例があると指摘している。こういう点を十分考えていただきたい。これは、技術論と法律論のさかいめになるかもしれないが、これから良く検討していただきたい。
- ・ それから先ほど、渡辺課長が判決のことについて説明し判決批判をしていたが、その中に、例えば炉心崩壊事故の時のエネルギーの大きさに関して、「大きくみななかった。９９８MJをみななかったことをだめだ」ということに対し、「それは単なる架空のことだ」という説明をしていた。
- ・ もちろんこういう計算はみな架空のものであるが、裁判ではこの９９８MJで検討するということは外国の例と比べてみても過大ではないといっている。そういうことを伏せて言っている。こういう国の説明の仕方について、これから十分用心して聞いていただきたい。

#### （会場より発言２ 敦賀市：吉村氏）

- ・ 私は裁判の原告の一人だが、先ほどの渡辺課長の説明に関することが争点になっている。県民からでた意見も主に３つあり、蒸気発生器の問題、床ライナの問題、それから最後の緊急時の問題、これは即発臨界に関連する問題である。判決ではそこまできっちりだしている。
- ・ 床ライナといえば鉄板を敷くということだが、これがサイクル機構でも既定の事実のようになっている。先般の空中分解をしたコロンビアのあの例をみても、あのセラミックスを敷いたほうが良いのではないか、こういう議論だってできるわけである。それは経済性の問題と関連するわけであるが、１つの問題をいろんな角度からみられることをこの委員会のほうで、今回の裁判の結果をみて十分判決内容を読んでいただいて、その上で結論をだしていただきたい。
- ・ 特に、今日、国の方からだされたものについては、ごく一部の自分の方に都合の良いことだけを出している。今度の判決はそんなものではない。極めて安全の問題についても重い問いかけをだしている。国民もそのことを考えなければいけないし、県民もそのことに思いをいたさなければいけない。ましてや検討委員会も、

そういうもんじゅの安全の問題について十分審議していただきたい。

- ・ 私はそのことについて前から、批判的な学者の意見も検討委員会で聞いてもらってはいかがかと言ってきた。地震の問題については石橋先生をよんでいた。しかし原子炉の問題については、今の床ライナとか蒸気発生器とか即発臨界の問題とかについては遺憾ながら国とサイクル機構だけの意見で審議をしている。
- ・ それについては、反対や批判的な意見を持つ学者の意見も検討委員会で審議をする必要があると思っている。そういうところを多角的に聴いた上で最終結論に導いていくことを是非お願いしたい。

#### （会場より発言3 敦賀市：坪田氏）

- ・ 会議の進め方について、今日は国からの説明と裁判で住民側が勝訴したわけであるので住民側の学者もきて、両方の意見を聞いて審議を進めると思っていた。しかし、国からの説明だけで驚いている。
- ・ 今度の裁判の結果で住民は本当に心配している。それは、作ったときの審査に問題があるということだからである。今までも、「もんじゅ」が問題だということは市民の中で囁かれていた。今度の裁判の結果をみて本当に大変だと思っている。だから住民不安の解消ということを、先ほど何人かの委員の先生も言っていたが、そのための具体的な手立てを講じて欲しい。
- ・ その1つは、両方の意見を聞いていただくということ。もう1つは、この委員会でもよいし、県でもよいが、現在の住民の不安を解消するための具体的な手立てとして、安全審査した国側と裁判の主要な柱となった住民側の専門家を招いて何が問題なのかということを市民にわかるように説明会を持って欲しい。これは委員会主催でも県主催でよいので是非敦賀でやっていただきたい。

#### （会場より発言4 美浜町：松下氏）

- ・ 審議概要を見る限りでは、核燃サイクルや国の説明に対して、そうすかなどの納得であるとか、提言をされるとか、という程度で進められていると思う。先ほどの吉村さんとか坪田さんも言われたが、僕は原子力の設備を厳しい視点で見つめてきて、こういう事故が起きると予告してきた研究者がかなりいるわけである。
- ・ そういう人たちの意見が全然採用されてきていない。僕らも美浜町にいて軽水炉の事故をずっと見てきた。その軽水炉で、先ほどの問題もたくさんあり、それよりも、「もんじゅ」の方が、はるかに条件が厳しいということが明確に言えると思う。そういうこともあるし、もんじゅは経験的にも本当に乏しいものしか持っていない。
- ・ 厳しい事故が起これば軽水炉よりもずっと被害が厳しくなる。そういうものを県民は非常に不安に思っている。それに答えていくためには、厳しい意見を言う人たちの研究者の意見を前向きにもっと聞いていただいて、国やサイクル機構の言っていくことをもっと検証する対応がいると思う。

- ・ 聞き置いて提言するというだけでなく、言っていることが本当なのかどうかということも視野にいれて報告していただかないと、県民として中々納得できないと思う。

#### （会場より発言５）

- ・ 今度の判決をめぐり、技術的に検討を深めて対応するというような論議の流れだと思う。
- ・ 高速増殖炉については、国際的には先進国も撤廃した、止めてしまったと色々ある。それはそれなりの条件があって、技術的な蓄積もあると思う。どう改変していくかとの論議がされてきたと思う。日本が省資源国だからどうしても核燃サイクルを中核として推し進めていくということに固執していたのでは、技術的な対話が非常にわかりにくくなるし、狭くなってしまう。
- ・ 国際的な高速増殖炉の開発の失敗とか、こういうことから深く学んで、日本の本当の科学技術に立脚した真の意味での、そういう研究開発、エネルギー政策というものを検討しながら考えていく必要がある。そのへんの論議が今日は浅かったのではないかということを感じた。

#### （会場より発言６）

- ・ 先ほど、何人かの意見があったが、今日の委員会でも国の方の説明があったりするが、やっぱり批判的な学者の意見が少ないと思う。もんじゅ運転再開を前提にして、審議とか報告書とか作られては非常に困るなと思う。
- ・ 先ほど委員の方も県民の不安はあってはならないといていたが、先日、「もんじゅ」の判決があって、国の設置許可は無効であるという非常にやっぱりおかしかったのかと思う。そういう中で、実際問題としては、「もんじゅ」の改造工事の申請がなされていて、経済産業省がそれを許可した。後は、福井県とか市が受け入れれば工事が進むことになっていることがおかしいと思う。
- ・ 裁判で上訴するというのも言われているが、そういう中で委員会の報告書が出されて、福井県が OK してしまうことを非常に恐れている。運転再開を前提にして考えているのではないか、
- ・ 県民の安全とか生活を第一に考えるのであれば、もんじゅは、国は設置許可申請を取り下げるべきだし、核燃サイクルはその申請を取り下げるべきである。福井県の委員会としても、運転を前提としないという態度をはっきりさせるべきであると思う。

#### （児嶋座長）

- ・ 先ほどの意見は、我々の委員会の設置理由にはならないと思う。我々は純科学技術的に安全かどうかということ判断するという委員会である。
- ・ 国の政策については、長期計画の中において、「もんじゅ」は、重要な選択肢の一つであると指針があり、我々としては、この指針にある程度準じていくべきであると考えている。

(福井市：渡辺氏)

- ・ 国の政策に縛られずに技術的にやってほしい。

(会場より発言 7 小浜市：池野氏)

- ・ 座長が言われたように、国の上告理由書と判決をよく精査して県民にわかりやすい形で説明したいということなので是非それをやっていただきたい。
- ・ 最後に今後の進め方の中に、はっきりした判決が出たので、新聞にも出ていたように、住民とか、国民の気持ち、考えが判決にもでたのではないかというようなことがあったように、国民とか県民は必ずしも、「もんじゅ」の再開を願っているわけではない。
- ・ 国の長期計画に沿ってやられていくとのことだが、はっきりした判決がでたので、そういう中で今後の進め方について、判決は安全審査自体に問題があったと述べているし、昨年暮れに原子力安全・保安院が許可した設置変更許可書も影響を与えるものではないと判決でははっきり述べている。
- ・ 県民の不安に答えるという、この委員会の設立趣旨からみても、是非、安全審査のあり方自体をもう一度見直して、この委員会で審査をしていただきたい。そしてわかりやすい形で、県民に表明をしていただきたい。
- ・ 先ほど渡辺課長が判決に対する批判をされたが、昭和 57 年 3 月に科学技術庁がもんじゅの安全審査をした結果の報告書を読んだが、それに渡辺課長が関わったかどうか知らないが、科学技術庁が審査した結果をみても、今度の判決で指摘された問題点について安全審査が行われていないということを科技庁の文書から確認した。
- ・ そういう意味でも、今回の判決を受けてもんじゅ検討委員会でも、安全審査のあり方自体から問い直すという検討を、もう一度最初からやっていただきたい。

(児嶋座長)

- ・ ただいまの市民の皆様からのご意見に律して委員会の方で検討したいと思う。色々なご意見があろうかと思うが、我々としては、特に原子力に関する専門家によって構成されている委員会であるので、科学技術的な面での判断はある程度可能かと考えている。しかし、今のようなご意見があったことも委員会の中でまた議論させていただきたいと思っている。
- ・ それでは、時間も参りましたので、これで本日の会議を終了させていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

以上